

提案
53

提案
54

提案
55

植物

* 前回・第16回締約国会議に続き、主に中国での「ローズウッド（紅木）」に対する需要の高まりにより資源の枯渇が懸念されているツルサイカチ属や類似種の附属書掲載提案や注釈改正提案が提出されています。

提案 53 注釈改正（附属書II掲載種）

タイ・ローズウッド(シタン)
Dalbergia cochinchinensis

提案国：タイ

背景：2013年のワシントン条約掲載後、原産国で木材を粗く加工し、加工製品として輸出することにより、現在の注釈が抜け穴として使用されています。違法に伐採、輸出されたとみられる大規模な木材の積み荷が押収されています。

提案 54 附属書IIに新たに掲載

メキシコ及び中米に分布する
ツルサイカチ属 *Dalbergia* 13種
※注釈なし

提案国：メキシコ

背景：メキシコが調査を行った結果、当該13種がリスクの高い種であり、識別も困難であることが判明しました。

提案 55 附属書IIに新たに掲載

ツルサイカチ属 全種 *Dalbergia* spp.
※注釈なし
※附属書I掲載種は除く

提案国：アルゼンチン、ブラジル、
グアテマラ、ケニア

背景：種ごとの情報が少ないものの、種によっては、資源の減少を示す兆候があり、また国際取引の需要が高まっています。



©HK government

2016年7月に香港で押収されたタイ・ローズウッド

トラフィックは3つの提案すべてを**支持**。

ただし、提案55が否決された場合、提案54については、他の規制との一貫性を保つために、注釈#6「丸太、製材品、薄板及び合板」を付ける必要があると考えています。

提案
56

提案
57

提案
60

植物

提案 56 附属書IIに新たに掲載

ブビンガ属の3種 *Guibourtia tessmannii*,
G. pellegriniana, *G. demeusei*

背景：ブビンガ属の3種もプテロカルプス・エリナケウスも「ローズウッド（紅木）」として、主に中国向けに大量に輸出されており、違法伐採も横行しています。



©Scamperdale / Creative Commons

提案 57 附属書IIに新たに掲載

プテロカルプス・エリナケウス
Pterocarpus erinaceus

プテロカルプス・エリナケウスは今年の5月から附属書IIIに掲載されています。

トラフィックの見解：提案を**支持**

【植物とワシントン条約】

- * 植物の中には、野生から採集され利用される種も多い一方、栽培されたものが取引の中心となっている種もあります。
- * また、植物のどの部分が主に利用されるか（木材、根、樹皮など）によって、種の存続に対するダメージは異なります。
- * トラフィックは、このような情報も含めて掲載の是非を判断しており、提案50（トックリラン属全種）や提案59（アルジェリアモミ）の附属書II掲載提案には反対しています。



©James Compton / TRAFFIC

提案 60 注釈改正（附属書II掲載種）

アキラリア属 *Aquilaria* spp. (沈香)
ギリノプス属 *Gyrinops* spp.

背景：国際取引の主な対象となっているウッドチップについて、「小売販売用に包装・準備された」ものであっても規制対象とする提案です。

日本との関係：ワシントン条約のデータベースによると、日本は2005年から2014年まで毎年約16t~35tのウッドチップを輸入しており、世界有数の輸入国となっています。原産国では、沈香の持続可能な利用に向けた取り組みが続けられていますが、日本も輸入国として関係国をサポートしていくことが求められます。

トラフィックの見解：提案を**支持**